

対馬暖流は沖合と沿岸寄りを北上 対馬暖流の流量は平年の8割 今後の沿岸水温は平年並で推移

2023年2月7日～13日にかけて実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。

せたな沖を沖合とやや沖合に分かれて北上した対馬暖流は、岩内沖で一本に収束し、積丹半島以北では再び沿岸寄りと沖合の2本のルートに分かれて北上しています（図1c）。

せたな沖で計算した対馬暖流の北上流量は約1.0Sv（1Sv=10⁶m³/s）で平年の約8割とやや少なくなっています（2月流量の平年値は1.2Sv）。2022年10月の調査では、対馬暖流はほとんど流れていない状況でしたので、最近は順調に北上している模様です。

岩内沖には暖水渦が形成されており、渦の周辺では時計回りの流れがかなり強くなっています。

50m深水温は3～8℃でほぼ平年並みですが、せたなの沖合では平年よりも約2℃高くなっています（図1a,b）。

2月中下旬の余市前浜水温は「やや低い」ですが（※1）、向こう1ヶ月の気温の予報は平年よりも高くなる確率が高くなっていますので（※2）、今後、沿岸水温は「平年並み」まで上昇することが予想されます。

※1 <https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyuu/suion/index.html>

※2 気象庁HPより1ヶ月予報：<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>



余市前浜水温 気象庁1ヶ月予報

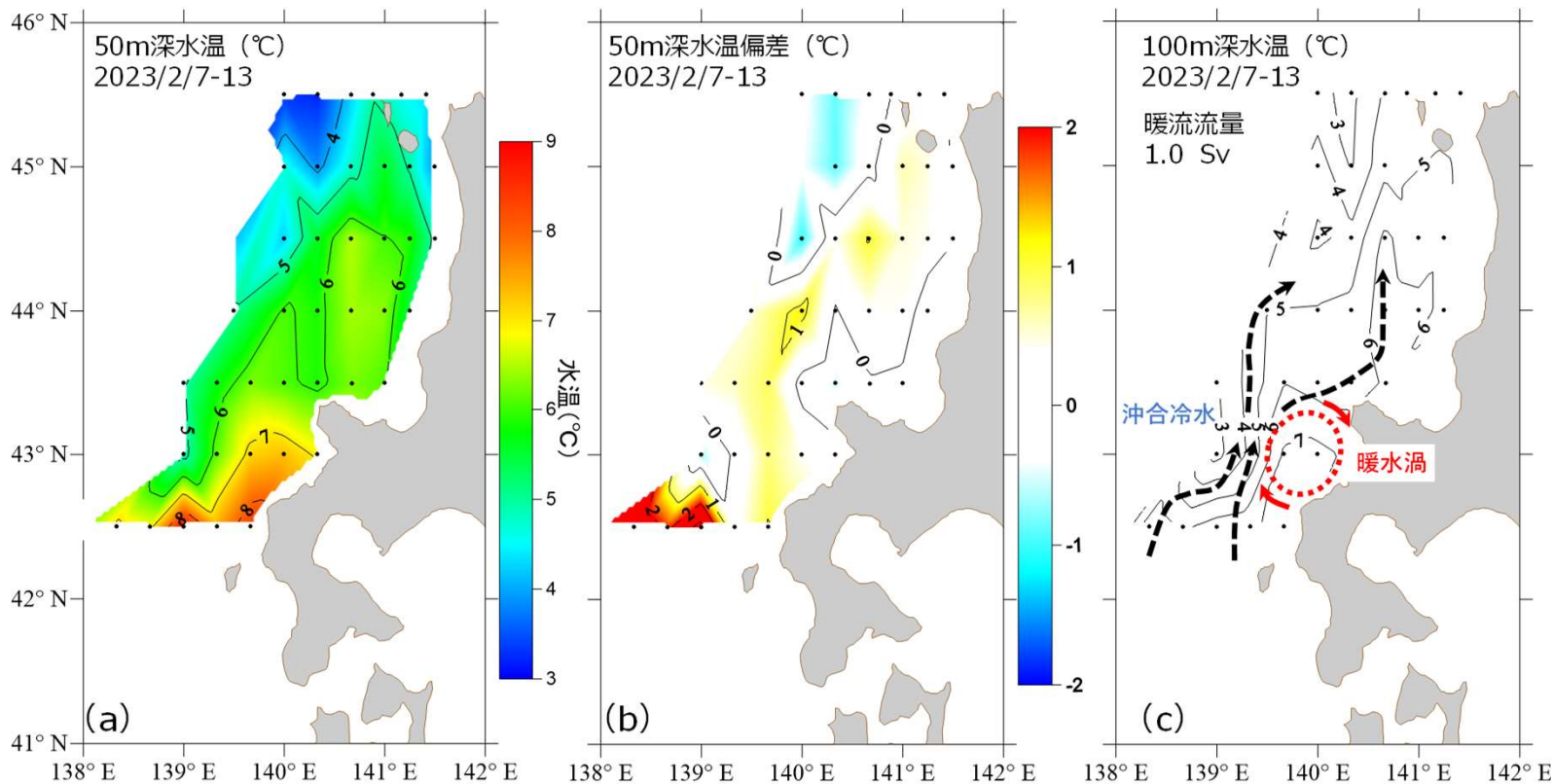


図1 2023年2月上中旬における (a) 50m深水温 (b) 50m深水温偏差の水平分布、(c) 100m深水温の水平分布と対馬暖流の流路（矢印）。水温偏差は過去30年（1989年～2018年）の平均値から算出。流量の単位はSv（=1×10⁶m³/s）。